

登山報告書

- 目的地：大麓山（1460m）トウヤウスベ山（1400m）
- 期日：2019年1月18日（金）～1月20日（日）
- 目的：大麓山とトウヤウスベ山を滑り倒す&原始が原と富良野岳を眺める

●参加者

L：丸谷 聖一 63歳
SL：船木 上総 63歳
M：日角 彰 66歳
M：小野由紀子 46歳
M：高尾 美緒 55歳

●行程

18日（金）麓郷市街（7：40）＝中白鳥川出合飯場（8：40）＝中白鳥川沿い C560m 尾根取付（11：00）
＝林道 1020m（13：20）＝林道コル手前 1160m（14：30）BC
19日（土）BC（8：40）＝大麓山（10：20）＝1178m コル（11：00）＝1230m ポコ（11：40）＝ポコ南
東斜面滑降 1080m（12：00）、スキー練習＝BC（14：00）
20日（日）BC（6：40）＝大麓山北西肩（7：50）＝大麓・トウヤコル（8：10）＝トウヤウスベ山（8：
50）＝コル（9：10）＝大麓山北西肩（10：10）＝BC（11：00～11：40）＝中白鳥川林道 C620m（13：20）
＝中白鳥川出合飯場（13：40）、下山

●実際の行動

18日（金）天気 雪、西風強し、気温-10℃程度

前日の17日はオホーツク海で発達中の低気圧の影響で、日本海側や北部で大荒れの天気。18日もその後遺症が残り、高速道路では通行止区間が発生中。そんな中、やや遅れて上総車は7：40分に麓郷の町に到着。富良野硝子駐車場にて集合・荷分け実施。

中白鳥川出合は工事業者が入っており、林道は除雪されていた。了解を得て脇の邪魔になら無いスペースに車2台を駐車する。

ポン布部川沿いの林道を300mほど上流に歩いて広い尾根に取り付く。積雪は少なめで大きな倒木があちこちにあり、ルートファインディングに苦勞する。予定の尾根に取り付いたのは歩き始めて2時間半後。その後も倒木を迂回しながらの登りが続く

C1020mで立派な林道にぶつかる。その後林道沿いにラッセルし、1178mコル手前の1160mにてBC設営。6時間行動は、ほぼ予定通り。

19日（土）天気 雪、北西風強し、気温-10℃程度

予報通り風が強く視界もあまりきかないため、本日の行動は大麓山アタックをメインとし、時間があれば樹林内スキー練習とする。前夜からの降雪は20cm程度で、BC出てしょっぱなから膝ラッセルとなる。1178コルからは雪が吹き払われて脛程度。コルからの広い尾根のC1350mあたりから樹氷モンスター群が現れ始め、なかなか壮観な眺め。登り始めて1時間チョイで大麓山の肩。風強く、新規斜面開拓は無理な状況なのでピークアタックに専念する。記念写真を撮ってシールをはずしてピークから滑降開始。

最初の標高差100mは密なモンスター群にはばまれスキーにならないが、C1350mあたりからは南西面樹林パウダー滑降を満喫しながらコルまで一気に滑る。軽くていい雪だ。昼前にコルに戻ったのであとはスキー練習とし1230mポコから南東面の樹林滑降を3本程楽しんだ。スキーに燃えるオノっちはさらにプラス2本。体力あってあきれる。あとはBCでスキー論議やら世間話やらでまったり。20時就寝。

登山報告書

20日（日）天気曇り、西弱風、気温-10℃程度

昨夕からの風が止む。4時起床。風もおさまったので、トウヤウスベ山を目指す。本日中にBC撤収・下山予定なのでトウヤウスベ引き返し10時をタイムリミットとする。

昨日とほぼ同じペースで大麓山肩まで。風は弱いが目指すトウヤウスベ山は見えず。大麓山とトウヤウスベ山のコルはかろうじて目視確認できる状況のまま、コルに向けて滑降開始する。国境稜線上は低木トラップが多すぎるので、やや東側の滑りやすそうな緩い斜面を滑ってコルまで順調に行く。そこから標高差100m登ってトウヤウスベ山頂到着。タイムリミット1時間前だった。山頂標識等はなにもなく一番高いところをピークとして記念撮影。眼前の富良野岳や眼下の原始ヶ原は見る事が出来なかったが、悔いを残すことも大事なのだと自分を納得させる。

トウヤウスベ山から引き返し大麓山肩から昨日の斜面を滑ってBCに11時に着いた。1時間以内にテント撤収を済ませ、下山開始。シールの着脱はもう飽きたので尾根上の倒木を巧みに避けながら1時間半で中白鳥川林道に無事到着。C620m地点で林道に取り付いたが、さらに上流まで林道は伸びている。

除雪された林道上を一気に滑って14時前に車の駐車地点に帰ってきて、下山終了。徹底した除雪のおかげでスキーの滑走面は小石を拾いまくってギタギタになってしまったが、下りラッセルと天秤をかけると、こっちの方がましかもねと、ふと思った。滑走面補修は全治2日てなところですね。

●感想

今回の山行の目的は、大麓山・トウヤウスベ山周辺の樹林滑降適地の開拓であったが、新規開拓できるほどの天候には恵まれず、二山のピークアタックのみであった。大麓山の東斜面や南西尾根、トウヤウスベ山の北面など、斜面状況が確認できなかったのは残念である。標高は低いを手付かずの巨木の原始林や頂上直下に広がる樹氷モンスター群など、冬山として非常に魅力のある山域だった。

だれか、スキー斜面の開拓でこの山域に入ることを切に希望する。60過ぎるともう一度入山するには、気力が充実するまで時間がかかりそうだ。

